

第2回仙台中小企業活性化懇談会（要旨）

平成26年11月14日（金） 15：00～

仙台市役所本庁舎2階 第4委員会室

◆ 市長挨拶

本日はお忙しい中をご出席賜りまして本当にありがとうございます。

第1回の懇談会で皆様からいろいろなご意見を頂戴いたしました後、800社を超える各社の皆様からアンケートにご回答いただき、また、直接お伺いさせていただきまして150社ほどの皆様からお声をいただき、現場で実際にお仕事をしていらっしゃる皆様がどんな課題認識を持っているのかを広く把握するように努めさせていただいたところでございます。

そうした中で中間案の取りまとめをしてきたわけですが、ぜひ条例制定後何をやるかが一番大事なのであって、そのことを忘れないようにと適切かつ厳しいご意見もいただいたところであり、そうした言葉を胸に、しっかりと進んでまいりたいと思っていますところではあります。

国では解散など慌ただしい年末になりそうですが、我々は地方行政として、しっかりと一歩一歩自分たちのできることをやり、地域の力をつけ、ひいては仙台のみならず東北全体に資するように遅滞なく進んでまいりたいと思っておりますので、皆様方から有意義なご意見をたくさん賜りますようお願いを申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。どうぞ今日もよろしく願いいたします。

◆ 意見交換

○奥山市長

中間案について、趣旨であるとか、基本的方向性であるとか、また具体的にどういう項目を盛り込むかといったようなところのご意見が多いのかと思うわけでございます。順番にご意見をお聞かせいただければと存じます。

○稲葉雅子氏

幾つかあるのですが、まず、趣旨の部分です。東北の活力をけん引するというこ

とで、仙台市の色が出ているのかなと思うのですが、東北の活力をけん引してどうしたいのかをもっと見えるようにして、日本の中で東北が、その中で仙台市がこういう役割をしていくというのが見えると、「何となく東北の中心だから仙台が頑張らないと」ということではなく、具体的な将来が見えるのではないかと思います。

それから、条例の中の責務、努力という言葉に関してですが、「「中小企業者」は経済的社会的環境の変化に対応して」とあるのですが、やはり経済基盤を強化し、経営の革新をすることは大切なのですが、我々のような非常に小さな規模の企業ですと、まず継続することがすごく大切だと思っています。特に、今回、中小企業者と別に小規模企業者という言葉を入れていただいているのはすごくありがたいことと思っています。この小規模企業者の立場からも、やはり経営革新とかいろいろ大きなことは考えたいが、やはり継続ということを明確にわかるような条文にさせていただくと本当にありがたいと思っています。

それから、市の責務というところがあります。この中で、「中小企業の活性化に関する施策を実施します」とありますが、もう少し、市も頑張っただけで勉強するのだという意味合いを入れていただくといいのではないかと考えました。

○今野敦之氏

中小企業者という定義について、中小企業基本法で規定する事業者となっておりますが、事業協同組合等の中小企業等協同組合及び商店街振興組合もその定義の中に含めていただきたいと思います。

仙台市に所在する組合等は約240組合、構成員事業者数延べ8万事業者となっております。構成員事業者全てが仙台市に所在してはおりませんが、中小企業者の連携組織として、組合が持つ資源の相互補完力、経済活動力は極めて大きいと考えています。

中小企業は社会的責任を自覚して、自社の事業活動を通じて地域社会の発展に寄与して、市民生活の福祉向上に貢献するように努めなければならないと思います。

それから、市の中小企業活性化条例ができ上がったら、この中にも書いてありますが、実際の施策に当たっては、国・県・市の中小企業対策との整合性をとって

ただきたいと思います。我々は、ある場合は国のほうを見て、ある場合は県のほうを見て、ある場合は市のほうを見てという場合が往々にしてありますので、ぜひ中小企業活性化条例については、どこか、窓口一本化とはなかなかいきませんが、そういったところがあってもよろしいのではないかと思います。

○佐々木美織氏

私からは個人事業者としての意見と、日頃、中小企業の皆さんの支援に入らせていただく立場として意見を述べさせていただきます。まず、趣旨の部分ですが、特に自分自身として、または世代として気になったキーワードとしては、「中小企業の創意工夫と自主的な努力」というところです。どんなスペシャルチームで支援施策を市が作ったとしても、それを継続していかれるのはやはり企業自身です。よって、一律ではなく、変化に対応して広く地域にいい影響をもたらそうと努力をする企業にこそ支援をしていくという、「強い企業が育つまち」という考え方や仙台市としての姿勢がここに文章としてあらわれていると感じました。それが心に響いたキーワードです。

その下にも、「循環」という言葉が入っておりますが、やはり一社一社が努力して、ひとり勝ちというような形ではなくて、情報やノウハウを地域の中で循環させ、自立した企業同士が自ら連携を図って地域全体がよくなっていくような時代になってきていると思います。世代的にも、私たちは横のつながりをこれから密に意識していかなければならないと思ひまして、その循環という言葉はぜひ残していただきたいと思ひました。

そして、重要性を特に意識した「仙台市ならでは」の部分を示した基本方針の部分ですが、私は、起業支援センター「アシ☆スタ」でディレクターをさせていただいており、創業支援をする中で、やはり女性の起業志望者が増えてきていると感じます。実際、数値としても増えており、そこが仙台市の特徴だと思う反面、5年後、ここに明記してある女性への支援というのが、このまちでは当たり前になっていなければいけないとも思います。「女性や青年を含む多様な」の「多様な」というのは、一体仙台においてはどういう人たちを言うのだろうと思いを巡らせました。人口減少社会で、今、私たちがプロジェクトとして商品開発をするときに、メインの

ターゲットに据えるのが30代・40代といった団塊ジュニアの世代です。東京からの交通の便もこのまちはいいですし、また、東北各地から仙台に入ってくる人も多いとするならば、創業支援の中でも、Uターン、Iターンというのが今後増えるのではないかなと個人的に思っています。団塊ジュニアの人たちは、関西圏や首都圏のほうに流出しているという話も聞いていて、そういう人たちが事業承継を目指したり、あとは親御さんの介護という形で新しい働き方を目指して仙台へ戻ってくるということもあるならば、やはり仙台は、5年後10年後、新しく入ってくる人たちをどのように経済界として、もしくは地域として、受け入れていくか。そこが、「多様な」という一言に込められた一つのターゲットではないかと思います。そういう方たちは、やはり仙台で仕事をするために本気で戻っていらっしゃいますので、いかに地域で温かく受け入れ、経済の中にもうまく新しい風として入ってきていただけるかというところが気になるところです。

本業支援がこの条例の直接的な意味ではあると思いますが、優秀な人材をこのまに残す、育てるということを考えると、長期的な施策も必要なので、学生向けの職場体験を中小企業全体でより活性化するとか、中学生、高校生という、このまちで5年後10年後に働き手になる人に対して、私たちが一体何ができるかということ、意識をしてみたいと考えました。

○伊藤副市長

私からは、この中間案に込めた思いのようなものを、この立場からお話しさせていただきたいと思います。

価値が着実に循環し、地域の活性化が中小企業の発展を促進できるというお話がありました。ここで生み出した付加価値が全て外に流れていくようにならないようにしたい。ここで生み出した価値が地域の中で回るような、経済の地産地消といいますか、そういう流れが着実にできるようにしたいという思いが、この条例制定の趣旨に込められています。そのような経済を作るのは、資源をよそから買ってこなければならぬような日本あるいはこの仙台、宮城、東北という中では難しい面もありますが、できるだけ努めたいと思います。

それから、中小企業者の努力、経営基盤の強化とか経営の革新といったようなと

ころについては、やはり中小企業者の皆様がご自分の仕事をしていく、本業をずっと継続してやっていただけるということが、地域や社会に対して価値があることだということをお伝えしたいなと思っています。やはり皆さんが発展しながら、ご自分の本業をずっと続けていく、そういうことに対して価値を見出すということをもまず考えたいし、それができた上で、地域に対して、今度は本業以外の別の形で何ができるかということをお考えいただければいいなと。そういうところで中小企業者の努力というところを書かせていただいています。

それから、市の責務については、具体化するのには、活性化会議で皆さんからご意見をいただいて、その時々ニーズに合った形にやっていきたいと思いますというので、非常に理念的な書き方をしています。

施策の基本方針というところで、ここに仙台市が条例を作る場合の基本的なものを入れてあります。特に女性とか若い方、それから多様なところにはシニアの方とかニューカマーの方とか、そういった方々に我々としてできるだけ活躍していただいて定着を図っていただけないかなと思っています。

この懇談会でも、いろいろなアンケートでも、私がほかの機会にお会いする皆様からも、やっぱり人材の確保、人材の育成、後継者の確保、事業承継、そういうお悩みをいつも聞きます。これは、先ほど言った中小企業者の皆様の本業をずっと長く続けるために欠かせない要素だと思っています。そのために、より多くの皆様に活躍していただくことができないかということを書いていただきました。

それから、創業をした場合には、小規模企業者から始まります。この小規模企業者は、既にずっとある中小企業とはちょっと違う配慮が必要であり、その小規模企業者が頑張って事業を続けられるように表現させていただいています。

○佐藤元一氏

中小企業者の努力ということですが、従業員の仕事と生活の調和は、我々同友会でも保障をすと言っています。

それから、市民の理解と協力のところでは、やはり理解いただくためには会議の運営状況など実態をできるだけ情報発信することが大事なのではないかと思えます。

基本方針に関しましては、女性もありますが、やはり我々中小零細企業にとって、

障害者雇用というのはこれから非常に問題になってくると思います。

それと、先ほど経済循環とおっしゃっていましたので、これもぜひ施策の基本的な方針の中に、地域で生まれたお金は地域で回すと明文化していただければありがたいと思います。

それと、活性化会議ですが、条例制定の先進地域を見ると、この会議が機能を果たしているかどうかで、条例が生きた条例になるかの瀬戸際です。ですから、会議のメンバーがどうなるのか。仙台市民の皆さんにとってこの活性化会議がプラスになると、ためになると思ってもらえないといけません。

○鈴木泰爾氏

私たちの仲間では、自分自身を中小企業と思うよりも、商店街という別なくくりで考えていることが多いものです。

趣旨の中で、商都・仙台とうたっておられれば、商店街を含む中小企業とだけいただけないかなと思います。市民の方が商店街を含む中小企業の役割というか、やっておられることが実は大変な地域貢献にあるということを市民自体があまりご存じないので、どこかにそれを発露するものを、市の広報紙とかそういうところからやっていただきたいです。市民、県民が本当の地域貢献というのは商店街を含むいわゆる仙台あるいは県内の中小企業に少しでも生活の中で身を委ねることを頭に入れながら、一日の生活を送られることだということをかねがね思っています。

商店街がにぎわっているというのは、日本中で、仙台を数えると幾らもないのです。この商店街は大事にしていきたいし、今回の条例制定は誠にいいと思っています。

○畠山明氏

ご報告申し上げたいのは2点です。まず1つ目は、私ども中小企業経営者自身が学ぶ機会について、2つ目は女性の活躍についてお伝え申し上げたいと思います。

いただいたアンケートの中でもやっぱり1位になっているのが人材育成で、これは非常に大事だと思っています。起業したての方の支援も大事ですし、さらに、起業後、また新しい成長段階に入った方々の学ぶ機会というのも非常に大事なのかな

と感じました。特に、社長と一緒に学ぶような機会というのが非常に重要なのかなと思いました。中小企業は、いろいろ厳しい状況の中で、経営者自身のやる気であるとか自尊感情が非常に損なわれる機会が多くあります。それをみんなに乗り越えていただきたいので、一緒に学び合える機会というものを設けていただく、あるいはこちらに文言として学べる機会ということを入れていただいたら非常にうれしいなと感じています。

2つ目の女性の活躍に関しては、私の事業所は女性がかなりの人数を占めていますので、特に女性人材の活躍というのは、決して企業のCSRとかそういうことではなくて、本当に事業としてビジネスとして有効に活用できる方法だと私は認識しています。そのためには、やはり女性が働きやすい環境づくりが重要かと考えています。私どもも、大手企業に勤めていた女性が仙台に東京から戻ってきて、これまでの知識とか知恵とかを活かして、私どものような規模の会社で非常に大きな活躍をしています。しかしながら、その方が出産して休まざるを得ないとか、その後、きちんと戦力として自分は活躍したいが、私どものような仕事の場合は昼も夜も保育していただけるサービスがあると非常に助かるのですが、夜の保育サービスがまだまだ十分ではない。そういったところがもしあると、中小企業の女性人材の活躍という点では、非常にありがたいと感じています。

まとめになります。学ぶ機会、女性の活躍ということについてもさらに触れていただきますと、非常にありがたく思います。

○引地智恵氏

この条例制定の趣旨には杜の都、学都、商都といったイメージが記載されておりますが、そのイメージをいかに中小企業に還元していくかということではないかと考えております。

たとえば、学都仙台というイメージがあります。そのイメージ通り優秀な学生がたくさん仙台に集まっています。しかし、技術系の学生からは自分のスキルを活かした就職先がないとも言われております。学生は仙台市について他県の中核都市と比べ技術系製造業の企業が少ないという印象をもっているのではないのでしょうか。それが学都仙台と言われ、優秀な学生がたくさん仙台に集まっているわりに地元

残る学生が少ないという結果になっているように思われます。

仙台市内には昔から中小企業だけれど魅力のある製造事業者がたくさんあります。長い間操業を続けて、技術的にも優秀な付加価値の高い仕事をしている「ものづくり」の企業がたくさんあるのです。仕事内容についても、大手企業と同等の仕事内容だったり、または大手企業ではきていない分野や参入していない分野の仕事などを柔軟に対応したりしているのです。柔軟にいろいろなことができる、またスピーディーに仕事ができるということが中小企業の強みではないかなと思っています。

こういうことを学生、大学、教育機関などに積極的にPRしていただくことにも行政に関わっていただきたいのです。仙台に集まった学生が仙台で働くという環境づくりも中小企業活性化に結び付くのではないのでしょうか。又、学生の仙台市に対するイメージもアップするのではないのでしょうか。

全ての企業において人材確保が企業の永続的な発展の原点であります。又、企業自身も発展に向け努力を続け自社の魅力を発信していくことにより、終わりのない人材確保という課題をクリアできると考えております。その支援が条例の趣旨に盛り込まれているように思います。条例制定により仙台市のよいイメージがさらに高まるのではないかと期待しております。

Iターン、Uターンを考えている方にも、地元にどういう企業があるのか、仙台市の生活しやすい環境等といった情報を発信すれば、優秀な人材が集まってくると思います。こういう企業があるということをPRしていただければ、仕事の受注にもつながり地域の活性が図られます。仙台市のイメージを広く発信することも必要ではないかと思えます。

アンケート・ヒアリング調査結果の中に、海外への事業展開、海外企業との連携促進というものがありますが、発信型の事業展開、仙台で高い付加価値をつけて世界に発信していくという産業形態を構築していくことも必要であると思えます。条例制定により企業のグローバル化も加速されるのではないかと考えております。

○福嶋路氏

皆さんの意見を聞きながら、幾つかキーワードが頭に浮かびました。

1つ目は、学ぶとか変わるとかということですね。先ほど、皆さんおっしゃって

いたと思いますが、やっぱり中小企業自体、自助努力、創意工夫をして、自分たちがアップグレードしていく、学んで変わっていかないといけないという、その必要性。そのためにほかの組織と連携していくことが重要な点なのかなと思います。

2つ目は、価値を生み出して、それが地域内に循環するという、これは、恐らく自分たちで、仙台のよさとか仙台に眠っている資源は実はたくさんあるのだが、それに気がついていなくて、こうすればもっと価値として見える形になるのではないかということがあると思うのです。自分たちが見せていく、発信していくという、そういった努力もしていかなければいけないのかと思います。

3つ目は、多様な人が、自分の持っている潜在能力を活かせる。先ほど女性とか青年とかシニアの方とか障害者の方とか、そういう方々がもっと輝き、潜在能力を活かせるような仕組みをこの条例でもう少し推進していただきたいなど。

4つ目がつなげるということで、先ほども大学と学生がつながっていないとか、助成金と中小企業がつながっていないとか、それは広報などコミュニケーションの問題なのかなと思います。

5つ目が、実現する、です。条例を単なる理念条例にしないために、中小企業活性化会議、これをしっかりと実効性のあるものにしていくことがとても重要だと思います。

最後にちょっと一言だけ苦言を言わせていただきますと、この条例は何年ぐらいつのらうと、それがちょっと気になりました。将来像がちょっと見えにくいなど。例えば、仙台というのを隠して広島にしましたとか福岡にしましたと言ったときに、何か仙台っぽさがもう少し出るのかどうか。ひょっとしたらほかの地域とあまり変わらないものになってしまわないか。この条例は理念条例ですが、何年ぐらいつのらうのか。でも、この間にいろんな環境は、多分これから10年、20年、30年たつとラジカルに変わっていくと思うのです。恐らく何年後ぐらいつのらうにどういう人をターゲットにしてどういうことをメッセージとして残していくのかというのは、もう少し何かクリアな具体的なイメージがあってもいいのではないかなと思います。

○奥山市長

ありがとうございました。今、皆様から、趣旨でありますとか、またそれぞれの

主体の責務でありますとか、また、相互の関連などについても多彩なご意見をいただきました。ありがとうございます。

ご賛同や、ご質問でも結構でございますので、思っておられることをご発言いただければと思います。

○佐藤元一氏

この条例制定の趣旨のところ、仙台市の東北における位置づけをもう少し明確にしたほうがいいのではないかと。それに伴って仙台市の使命というのも出てくると思うのです。そういう観点からも、やっぱりこのところはきっちり詰めたほうがいいと思います。

○稲葉雅子氏

この条例を拝見していて、すごく総花的で、これが仙台市のものではなく、広島のものと言われてもあまりわからないような気がしました。それで、先ほど東北での仙台市の位置づけというお話をしたのですが、皆さんのお話の中にも人材育成というお話がたくさんあって、育成した人が何か事情があって東京に行ってしまった、外の世界に行ってしまったという方がすごく多いと思っています。そういう中で、仙台市にはこういう特色があるとか、仙台市の条例はこういう特色があるというものがもう少し明確にあると、仙台市に行くところの仕事ができるらしいという何かイメージづけができるのかと思いました。

大阪市の条例では、例えば基本方針の中に、中小企業のアジアをはじめとした海外への事業展開及び海外企業との連携を促進するなど、割と具体的な言葉が入っていて、具体的に仙台市で育成した人たちとか育成された人たちとかが、どういふところを目標に進めるのかという、その育成した人とか企業とかの行く先とか出口とかをもう少し見えるようにすると、すごくいいのではないかと感じました。

○畠山明氏

やはり、らしさという部分で、仙台市らしさというのをうたうのであれば、私たち仙台市にある中小企業らしさというのも明らかになるといいのかと感じました。

よく東京の経営者とお話しすると、仙台の中小企業は震災のときも一生懸命だったよねとか、利他的というのですかね、まずは相手のことを考えるような、そういう会社が多いイメージがあると言われたことがあって、せっかく周りから思っていたのであれば、そこは強みだなと感じました。ですので、中小企業者の努力のところに、私たちのよさをきちんと認識し、それをきちんと発信するということも加えていくといいのかと感じました。

○引地智恵氏

仙台市内の「ものづくり企業、製造業」の中には世界に通用するきらりと光る高い技術力を持っている企業もあります。こういった企業は将来に向けた技術開発への努力を長年続けております。表面に現れる数字だけで評価するのではなく、数字に現れない企業の惜しみない努力に対しても支援が広がるような条例であって欲しいと思っております。

○佐藤元一氏

我々の同友会の先進県では、条例がうまくいくには、条例があつて調査があつて会議があるという3つを定石と言っています。やはり調査を継続的に定期的にやるということが陳腐化を防ぐ一つだと思います。

○今野敦之氏

実は中小企業で大きな問題になっているのは後継者の問題です。後継者問題は最大の経営課題と私は認識しており、そればかりではないと思いますが、最大の経営課題の1つであることに違いはありません。

○佐々木美織氏

皆さんからお話を伺っていて、経営者同士の学びの機会ということを非常に興味深く拝聴しました。今、私は、デザイン支援のところのプロジェクトにも入らせていただいています。自分たちの企業価値を新しく発信したい、新しい取り組み、変化の波をむしろ自ら作りたいと手を挙げる中小企業の場合には、プロジェクトリー

ダーが次期社長のケースがすごく多いです。そういう方たちの中でノウハウが循環していないのが課題です。展示会などで、ぜひ名刺交換をしたいので、お引き合わせいただけませんかと頼まれてアテンドすることがありまして、経営者同士が横のつながりを求めていることを感じます。やはり経営者の方々は、お忙しいからこそ、一人何役もするからこそ、そういう横のつながりを意識的に持つであるとか、意識的にそういう場を推奨するまちの体質があれば、異業種の経営者同士の交流というのが盛んになってくるのだろうなど。日々の仕事の中からの感触としてすごく思い当たることがありました。

○福嶋路氏

先ほど価値が循環する、これはいいなと私もものすごく思ったのですが、恐らく多分これは価値が生み出されて、それが地域内だけで循環するというだけの話じゃなくて、仙台は何だかんだ言ってもやはり東京の支店経済というのは大きな特徴として絶対に免れないと思うのです。今まではどちらかというと東京に逆に吸い取られていると。循環ではなくて、片方が吸引されている、そんなようなイメージだと。それは皆さん共有できることだと思いますが、そうではなく、向こうからIターン、Uターンしたいと。意外に東京の仙台出身者の話を聞きますと、やっぱり戻りたい。戻りたいが職がないというのはよく聞く話です。仙台は、多分魅力はあるまちで、すごく住環境も教育環境もよいです。

そういうことがあるので、そういったところは自信を持っていいと思うのです。ですから、循環というのを単に地域内で回すだけの話ではなくて、逆に他の地域から引っ張ってきてやるぐらいの、地域外も含めた循環という意味を込めていただけるともっといいのかと思います。そのためにはいろいろ発信しなければいけないし、それを引きつけるような魅力を作らなくてはいけないという前提がありますが、いずれにしろ、あまり内向きな話ではなく、仙台はもっと開かれていると、ほかの地域ともっとつながるのだというところをPRしてもいいのかと思います。

○鈴木泰爾氏

皆さんのお話を伺って、やっぱりまちなかがいいねというほうに、やはり商都と

いう中には観光客という外側から遊びに来ていただけるという役割を私たちが持っているので、いろんな部分で横断的に、いわゆる商店街の個々の組合を超えていろいろな考え方が集積されて、私たちのほうも呼応して、ますます、やっぱり仙台のまちっていいなと言ってもらえる商店街を、作っていきたいなと思います。

○佐藤万里子氏（欠席のため経済企画課長意見代読）

条例制定の趣旨についてでございますが、内容はもっともだと思いますが、もっとコンパクトにまとめたほうが、読みやすく、理解しやすいと感じましたという点がまず1点でございます。

それから、2点目でございます。女性や青年を含む人材の育成、確保及び定着を切に望みます。マッチングや新入社員研修などをタイムリーに進めていただきたい。女性の雇用に関しては、社内に保育施設を造った場合補助金を出すなど、基盤づくりに重点を置いた施行を望みます。また、同居により育児の負担を軽減できるのであれば、住居を建設やリフォームする場合の補助金を出すなども一つではないでしょうかというのが2つ目でございます。

それから、3つ目といたしまして、中小企業の努力の点で、努力をしている企業はたくさんあると思いますが、この急激な変化に対応していくには、現状維持だけではなく、情報収集や企業間の連携も必要です。市や会議所の施策を活用して継続する努力をしていかなければならないと強く思いますということで、ご意見を頂戴しておりました。

○奥山市長

中小企業といっても非常に幅広くて、さまざまな分野、立場の方がいらっしゃるということが今日のご議論の中に本当に垣間見られていたと思います。なかなか、この定義というあたりが一番難しくなりそうかなと、また、いかに学びを引き込みながらビジネスというものを循環させていくか、その学びによってこそ仙台らしいものも生まれてくるだろうし、仙台らしい人材も育てていこうとお話も複数の皆様からいただいたようにも思います。最後に伊藤副市長いかがですか。

○伊藤副市長

皆様方からいろいろご希望を聞いて、これから、どのように反映できるかを考えていきたいと思うのですが、やはり仙台には仙台の特徴のある中小企業のあり方とか産業のあり方、街並みのあり方とかですね。それで、いきなり経済にはならないかもしれませんが、文化のあり方だとか、そういったものがあるのだと思います。そういうところを損なわないようにして、それで担っておられる中小企業の皆様がしっかりやっていける、そういう条例になって、皆さんが元気になる、まちが元気になるという形になると本当にいいなと思いますので、ぜひともそういう形を目指していきたいと思います。